

日本の刺し子

埼玉大学教育学部被服学研究室

刺し子とは

麻や綿の布を重ね合わせて刺し縫いしたものである。布が貴重だった時代に補修を目的になされ、その後、布の補強と寒さから身を守るためになされるようになったと考えられている。



剣道の面の拡大図

柔道・剣道着にみることができる。

現在では、伝統的模様だけでなく自由に模様を縫いあげる手芸の一つである。



刺し子の文化的意味

- ・生活技術としての刺し子

刺し子は、小さな布をつないだり、擦り切れを重ねて縫い合わせるため、布が貴重だった頃より生活に必要な技術であった。やがて、丈夫さを保ち、保温性を持たせるために、最初から刺し子をするようになった。

- ・家庭の仕事としての刺し子

女性たちは、夜なべ仕事あるいは冬の仕事として刺し子をした。家族への思いがさまざまな文様を生み出し、母から子へと伝えられた。



日本三大刺し子

津軽の「こぎん刺し」

山形県庄内の「庄内刺し子」

青森県南部の「菱刺し」

寒さの厳しい地域で生まれた「こぎん刺し」「菱（ひし）刺し」「庄内刺し子」は日本の代表的な刺し子であり、三大刺し子と呼ばれている。

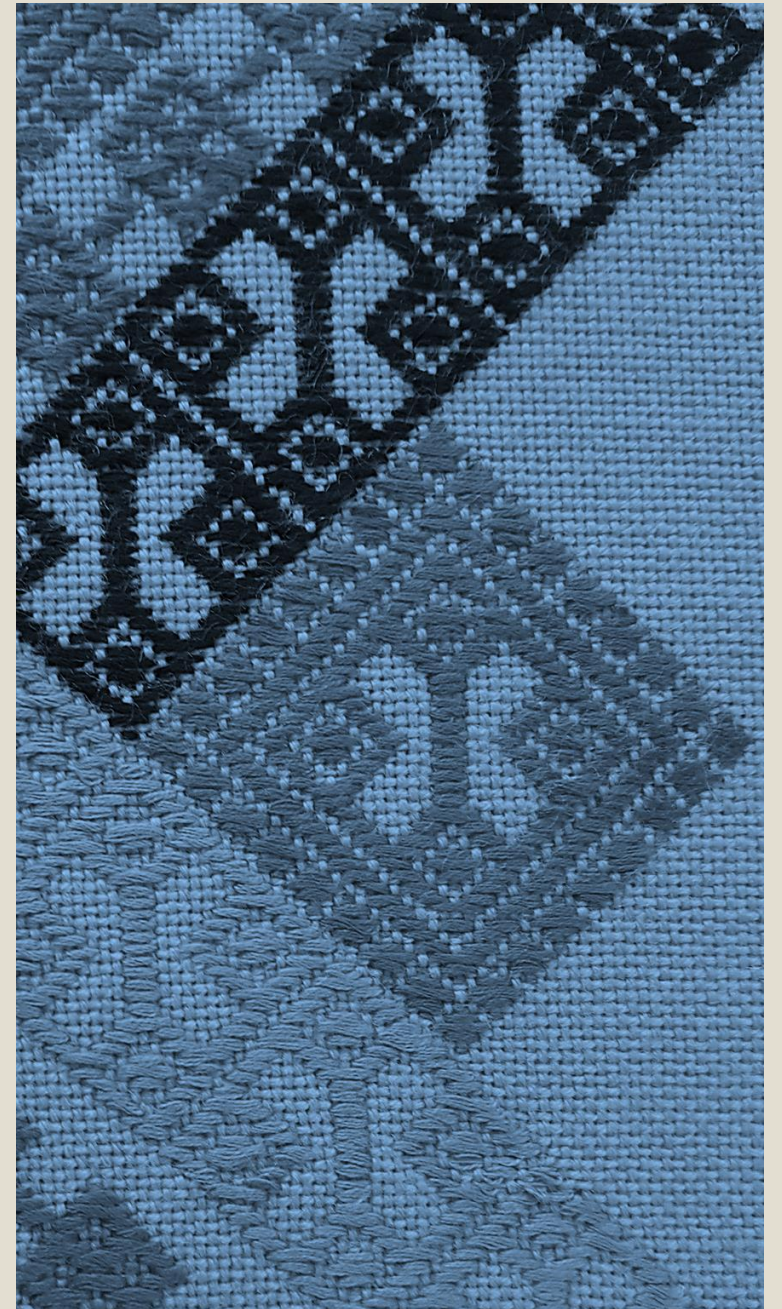
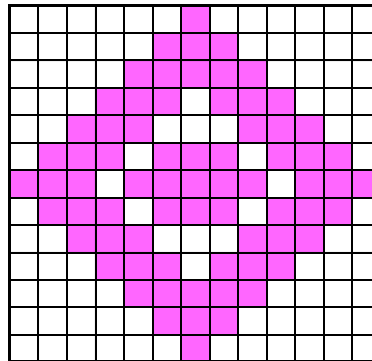
津軽の「こぎん刺し」

特徴

- ・江戸時代後期の津軽地方の野良着は麻でできていた。粗い布目に刺し子を施して、保温性と丈夫さを高めた。
- ・幾何学文様が特徴的である。

（刺し方）

たて糸を1、3、5本の
ように奇数ですくって刺す。
模様は正方形となる。



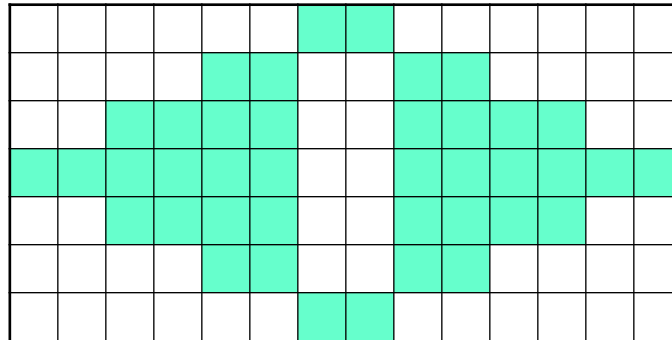
青森県南部の「菱刺し」

特徴

- ・ 横長の菱模様を積み重ねて構成される。
- ・ 色付きの糸が使用されることが多く、華やかな雰囲気がある。

（刺し方）

たて糸を2、4、6本の
ように偶数目で刺す。
模様は横長の菱形となる。



山形県庄内の「庄内刺し子」

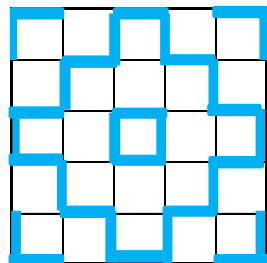
特徴

- ・ 藍染の木綿布に白い木綿糸で刺す。
(麻よりも目の詰まった綿の生地には刺す)
- ・ とても細かい針目が特徴で、保温性が高く、農民たちを厳しい寒さから守った。

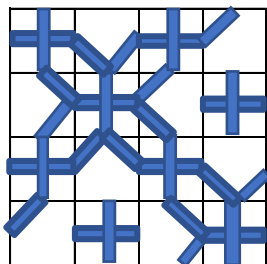
(刺し方)

糸を横、縦、斜めの順に1目ずつ縫って模様を縫う。

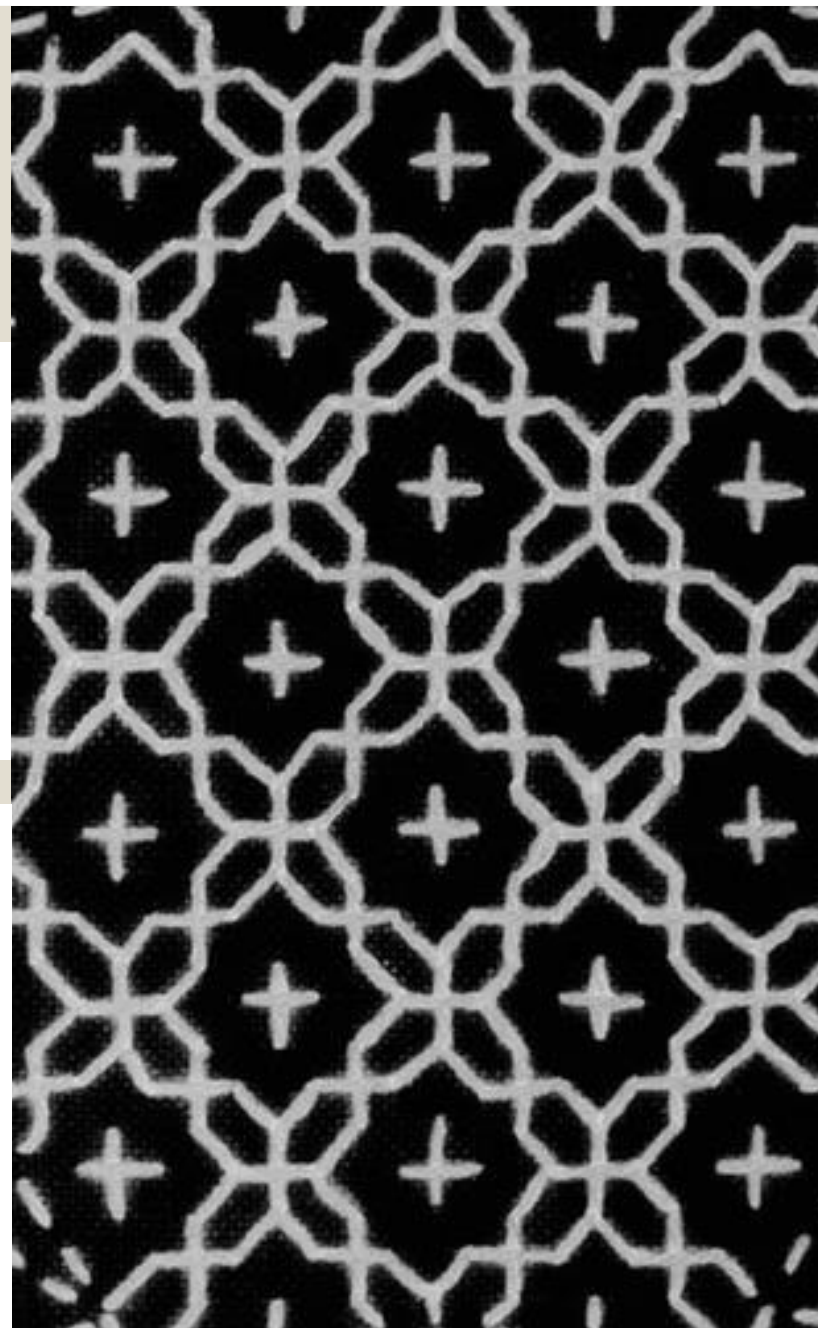
柿の花刺し



枡(ます)刺し



「枡刺し」の例⇒



参考文献

- 堀尾真紀子(2014)「祈りの手仕事 日本・刺し子」,『女性のひろば』 2014年12月号,p.10-11,日本共産党中央委員会.
- 「刺し子屋 わらべすく」 <http://warabesque.main.jp/column10.html> 閲覧日：2019年12月29日
- 「市民のグラフ こうべ No.252 神戸おもしろコレクション（上）」
<https://www.graphkobe.jp/detail/252.html> 閲覧日：2019年12月29日
- 「東北STANDARD 庄内刺し子」 <http://tohoku-standard.jp/standard/yamagata/shonaisashiko/>
閲覧日：2019年12月29日
- 「東北の刺し子」 日本ヴォーグ社 2016年
- 「知られざる海の刺し子展 ドンザ」,『福岡市博物館』
http://museum.city.fukuoka.jp/archives/exhibition/2005/20050802_donza2/ 閲覧日：2019年12月29日

（吉田七海、高橋美登梨、川端博子制作）